[illegible]

[illegible]

村雨の[illegible]高根の雲落く

吹いくるかぜの松の音

塩やき入る[illegible]人

[illegible]

一もとの[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

面をして霧の晴るる時のう
日の出るふかき雲の
明渡る面の面に原はかすく
うくいろふなる月の影流
心を共霧にてをしまし
誠なんとうき月の
本浦やうふ長へて
と絵をいかに杉の
ひ所面いつを数ふ浦うら月
入日をしけさ
祥ふをとあ俺て彩彩
ふをうとをしてこの
ぬふをれたの
ゆすう中ふ法人

世すて法人
東人
二ウ
ほとゝぎすとくふう神の色
金門
蟬羽の如やうに紅葉
ふる紅葉のうち
八月紅葉
なかなかに
葉さく
の破れ
夜ふけ月
結山
八月
稲の
八月
ふかけつゝ
八月
菊
八月

三

菊にそのまゝ咲くの花見
こゝろある民もいそぎ野まで露し
わするゝはこの荒神 二忠
竹の戸やあるあるまゝ波の音
くりかへしても遠き松原
舟人も橋かけとふに煙たく
雪はまださゆるこゝろは
むら竹の風も来なさゝれて
いはね小鳥のやどりさだめて
置つくはさながら月の影見れば
行く霧にたどりめぐる道
歌ぞやつしろひとるの秋の家
けふしも草葉の末の月
松風と孫党也来舟所以之氣出

けさ清き光なるの月

松風を移さぬ床の山ゐなれ

くらゐ四つのかまもとのうゑ

ぞ花のうゑ

もろこしまでもの移への東村

三ウ

柳をも新しかりし色ゆ

えかつらしの笠ハ蓋ゆ

やまと人も京をわすれ水鳥

ゐるあまものゑ河上

ゑうらゐ船ハ清き色ゆ

月のうちの明ぬ秋ゆ

紅葉ゆ明色ゆ

稲葉のすゑ少しあり

露の移ひ秋ゆ時ゆ

露ハ杉垣林に行舟路ゆき
めさ此船の浦よりてあかめ
先ささていそく色も花を桃垣
縦さそつ汲いけ不思見
岡山や花の枝乃夕かけ見ん之事
春色さえけ　武　松もの色紅
ことそ文字字の中
清水なく世の玉に
折ちか紀行のまへ小田の花
雲よりもて瀬津勝のまた
海に入さらいこ水のきこまゆの
波の枝く清見さ一のまつせ
春の船に去けの時の雲
松の本のまの月のまそかる
四月やとし乃そしいそれ能風紀
ここ見のあかきをに紀ある道

四月十五日　長二

付　長安寺

寛永六
巳年十月長一
法九月長一

付箋無之
月長二

さ遣ハんとすれ
ども

特別
へ5
6717

特別
ハ5
6717